

兵庫県神崎郡神河町におけるフィールド研修日程

大野浩輝・中村美琴・村上なつか

1. 一日目の行程

8月21日、フィールド実習1日目、町役場で町内の文化財についての説明を受けた後、南小田第一発電所（写真1）および第二発電所（写真2）へと向かった。到着後、関西電力の職員3人から発電所の概要を聞き、各施設を案内していただいた。これらはそれぞれ明治・大正期に姫路水力電気株式会社によって操業を開始した地域に根差した発電所で、近年では近隣住民を招待して100周年記念式典もおこなわれた。なお、町内にはこれ以外にもこの時期から利用されている長谷発電所（写真3）も存在する。残念ながら、戦後の大改修のため操業当時の施設は存在しないものの、今回の調査では、以前の発電所の銘板（写真4）および写真などを確認することができた。京都市の蹴上第二発電所（明治45年完成）や宮城県仙台市の山居沢発電所（明治21年完成、同42年建屋建て替え）などは創業当時の設備が現在も利用されているが、これら近代の発電所をいかに保存していくかが近代化遺産の一つの課題といえる。

その後は柏尾区の法性寺・大歳神社で石造物や建造物の実測をおこなった。途中、柏尾区長の太田和仁氏や神河町地域振興課の澤田俊一氏から聞き取りをおこない、地域の歴史や神河町の文化行政についての理解を深めた（写真5）。調査終了後には法性寺で開催されていた地蔵盆に参加した。そこでは大人にまじって数珠繰りをおこなう子どもたちもみえ、地域文化の継承を実感することができた。

宿泊施設のグリーンエコー笠形へ到着後は、神河町「歴史文化基本構想」について教育委員会の竹国よしみ氏から説明を受け、福本遺跡や銀の馬車道などの文化財の活用についての知識を深めた。

（大野）



写真1 南小田第一発電所



写真2 南小田第二発電所



写真3 長谷発電所



写真4 南小田第一発電所旧設備銘板



写真5 大歳神社聞き取り風景



写真6 生蓮寺での聞き取り風景

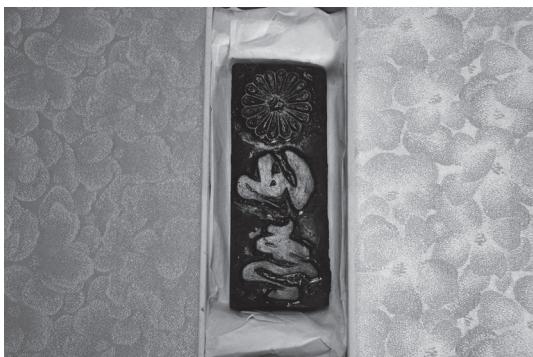


写真7 仙靈の木版

2.二日目の行程

8月22日、ヨーデルの森に到着後、銀の馬車道についての調査を開始し、銀の馬車道の道幅や残存石垣の高さなどを測定した。昼食後は栗賀区の生蓮寺住職の奥田瑞光氏に仙靈茶の聞き取りをおこなった（写真6）。奥田氏によれば、神河町での仙靈茶栽培は、1716年に生蓮寺住職である上空上人によってはじめられたという。生蓮寺には菊の御紋のある「仙靈」と刻まれた木版（縦14.2cm、横5.5cm、厚さ1.9cm）が残っているが（写真7）、これは門跡寺院の宝鏡寺との関係に由来するという。その経緯について奥田氏は、生蓮寺は仙靈茶を販売するために菊の御紋にこだわっていた可能性があり、そのためにまず同じ宗派である京都の十念寺を介して寺社奉行へ願い出、そこから宝鏡寺へ依頼したのではないかと推測する。そのお礼として生蓮寺は、宝鏡寺と十念寺へ毎年贈物として仙靈茶を献上していたとのことである。なお、同寺院の古文書によって福本藩にも仙靈茶を納めていたことも確認できた。

その後は生蓮寺近くの「駅」で、栗賀区長・中村区長に聞き取り調査をおこなった。仙靈茶はかつて各家で自宅用として栽培されており、その後、茶の組合が発足したものの、2015年に解散し茶畠が荒廃したため、町づくり協議会が2015年から茶畠を管理し、現在では大学、中村・栗賀区、金融機関などによって生産がおこなわれているという。2016年5月には協議会やボランティアによって茶摘みがおこなわれ、仙靈茶というブランドで6000袋が生産・販売されている。これらは現在、JAで加工されているが、将来は「駅」の裏を茶畠とし、釜で炒り、むしろで揉み、干すという伝統的手法でおこなう計画もあるとのことである。

なお、この仙靈茶は昭和初期の建物を2015年12月に改修し、2016年4月24日にオープンした「駅」で販売されているが、将来、これを地元の特産物が設置できるように改修し、地域おこし協力隊員が居住できるようにしたいとのことであった。こうした活動は2010年に景観形成地区計画が、2013年に町づくり協議会が発足し、2014年に

「駅」を含め中村・粟賀区が景観形成地区に選定されたこととも無関係ではない。中村・粟賀区は農水路を共有するだけでなく、毎年10月には両区で秋祭りを実施しており、密接な関係を保ち続けているという。

夕方からは徹心寺で福本池田藩主の墓域や銘文の確認をおこなった。その後、縄文時代～奈良時代の複合遺跡である福本遺跡を見学し、2日目の行程を終えた。
(中村)

3.三日目の行程

3日目はまず加納区の五輪塔を調査し(写真8)、それが鎌倉中期～室町初期のものであることを確認し、その後、二班に分かれた。一班は中村区の法楽寺で播磨犬寺物語などを調査し、もう一班は粟賀区の竹内家住宅(写真9)の見学および聞き取りをおこなった。

竹内家住宅は天保年間の粟賀の大火の後、生野から移築され、近年の調査により天保年間に建造されたことが判明した邸宅で、平成27年(2015)3月には景観形成重要建造物に指定された。この後、さらに東柏尾区の笠森稻荷神社見学班と柏尾区の古城山古墳踏査班に分かれ、笠森稻荷神社班は近隣の中島恒雄氏から聞き取りをし、神社裏手の高畠通古墳群を見学した。もう一班は古城山古墳の現状確認ならびに測量調査を実施した。

昼食後は大河区の山下かよ氏の自宅で茶畠を見学し(写真10)、聞き取りをおこなった。自宅の庭の茶畠は小規模で、茶畠は直線状の畝ではなく、不規則的に栽培されていた。また、茶葉を炒る際に使用する鉄釜も実見した。鉄釜はかつて牛の飼料の麦を煎るなどにも利用されていたが、現在は茶葉のみに用いるという。

その後、赤田区や川上区の地蔵盆の準備・見学をおこなった。赤田区では夕方まで花だんご作り、竹串作り、櫓組みなどの作業に従事し、19時からは庚申堂での法会にも参加した。

もう一つのグループは川上区へ向かい、福田寺で壇の地蔵を見学し、山名宗悟町長などから聞き取りをおこない、地蔵盆で使用する竹串作りや花だんご作りを体験・見学した。

この後、一部は再び下山して寺前区の最明寺に向かい、住職の井上智博氏から昔の地蔵

盆や数珠繰り、閻魔坊に関してのヒアリングを実施し、最明寺の裏山にある城山古墳群を見学して解散となった。川上区に残ったグループは、20時頃まで地蔵盆を見学した後、赤田のグループと合流し、20時30分頃調査を終えた。
(村上)



写真8 加納区五輪塔



写真9 竹内家住宅



写真10 茶畠